

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0870102183		
法人名	株式会社 伊藤建設		
事業所名	グループホーム ひかり		
所在地	茨城県水戸市小吹町267-43 (電話) 029-240-3511		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年2月23日	評価確定日	平成21年6月12日

【情報提供票より】 (平成21年1月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8人, 非常勤 10人, 常勤換算	10.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	350 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 250 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年1月16日現在)

利用者人数	18 名	男性 8 名	女性 10 名
要介護1	6	要介護2	5
要介護3	3	要介護4	2
要介護5	2	要支援2	
年齢	平均 74.9 歳	最低 60 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	久野医院, 尾山歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の立場になってその人らしさを大切に、家族や地域社会との交流を深めるため管理者と職員が一丸となって支援に努めている。
朝夕の申し送り時やミーティング時に基本理念を唱和し共有している。
食事は利用者の希望を聴いて職員が調理し、利用者職員が談笑しながら温かみのある家庭的な雰囲気の中で食事をしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 運営推進会議録の作成や市の関係部署にパンフレットの配置、職員の段階に応じた研修計画の作成、重度化や終末期支援のマニュアルや契約書の作成などが期待されていたが改善するまでには至っていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を全職員に周知し改善に向けて話し合っている。 職員の仕事を自己評価し改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催し自己評価や外部評価の結果、利用者へのサービス提供状況を報告しているが、参加者からの意見聴取が十分行われていないので活発な意見交換ができるよう改善を図るとともに会議終了時に次回の議題を決めるなどによりスムーズな議事進行を期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するとともに意見箱を設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の住民が来訪したり散歩の時などに挨拶を交わしている。 敬老の日や盆踊りに参加し地域の人々と交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者の立場になってお世話をさせていただきその人らしさを大切にします」との理念に「ご家族との交流を深めます。地域社会との交流を目指します」を加えて新しい理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員の採用時に必ず理念を教え理解してもらっている。 朝夕の申し送り時に理念を唱和するとともに玄関の見易い場所に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の住民が来訪したり散歩の時などに挨拶を交わしている。 敬老の日や盆踊りに参加し地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を全職員に周知し改善に向けて話し合っている。 職員の仕事内容を自己評価し改善に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し自己評価や外部評価の結果、利用者へのサービス提供状況を報告しているが参加者からの意見聴取が十分行われていない。	○	参加者からの活発な意見交換ができるよう改善を図るとともに会議終了時に次の議題を決めるなどによりスムーズな議事進行を期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は運営上の問題や疑問が生じた場合は市に出向いたり電話などでアドバイスを得ている。 介護相談員を受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時や電話で近況を報告するほか、広報紙「ひかり便り」を発行するとともにホーム内に写真を掲示し、利用者の暮らしぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するとともに意見箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今まで職員の離職はほとんどなく良好な馴染みの関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は業務の中で職員を指導しているが、職員の段階に応じた研修計画を作成するまでには至っていない。	○	新規採用職員研修や経験に応じた研修を受講できるよう外部研修や内部研修を計画し、実施することを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と意見交換を行うとともにサービスの質の向上に努めている。 認知症グループホーム協議会に加入し会合で意見交換などを行っている。	○	運営者や管理者ばかりでなく職員の参加を推進し意見交換や情報交換などが行なわれることを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用を実施し職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう配慮するとともに利用者や家族等に納得してもらってから利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いや不安、喜びなどを把握し日々の暮らしの中で分かち合うとともに利用者が得意分野で力が発揮できるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通ができる利用者には声かけをして不満や要望などを聴き、希望にそえるよう努めるとともに疎通ができない利用者には行動や言動を通じて意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族に日ごろの関わりの中で思いや意見を聴き介護計画に反映させるとともに全職員でやアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個人記録をもとに職員は常に話し合い、定期的にカンファレンスを行って介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況や要望に応じた馴染みの生活を継続し、重度になっても安心した生活環境を確保している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月1回の往診と歯科医による往診を受け入れている。 利用者が希望するかかりつけ医がある場合は職員が通院支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方を医師や利用者の家族等と話し合う用意はあるが契約書やマニュアルの作成までには至っていない。	○	利用者の重度化や終末期の支援に対するマニュアル、契約書の作成などの取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りとプライバシーを尊重しながら支援している。 記録等の個人情報は事務室に保管し情報漏れがないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースにあわせ希望にそって支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は食事の準備や後片付けなど利用者が役割を担えるよう支援している。 また、自家菜園で採れた野菜を調理したり旬の季節料理を提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週2回午前中に入浴と決まっているが、希望によりいつでも入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、得意なことやできることを見出して役割を担ってもらうことで、その人らしい生活ができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に注意しながらホーム敷地内を散歩したり近くの田んぼや畑に出て近所の人たちと話をしている。 また、希望により外食やドライブ、買い物などの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は外から自由に入れるが、内からは玄関を出るとすぐ道路なので安全対策のために施錠している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自動火災報知器を設置するとともに災害対策マニュアルを作成し、消防署と連携して避難訓練を実施している。	○	食糧や飲料水を備蓄することを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門家によるカロリー計算をした献立で利用者の栄養状態に応じて食事の量や形態を変えて食事を提供している。 また、食事量や水分摂取量についても必要量が確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や玄関周りなどに季節の花を飾り心地よい空間となるよう工夫している。 畳敷きの一隅やソファを設置し利用者が休息できるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は壁に写真や絵を飾ったり馴染みの品物を持ち込むなどで利用者が居心地良く生活できるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。